

2000年以降最少

厚労省統計

今年上半期(1~6月)

の出生数は、前年同期比3.6%減の37万1052人

だったことが29日、厚生労働省の人口動態統計(速報)で分かりました。2000年以降最少で、2年連続で40万人を下回りました。未婚・晩婚化などに伴い、急速なスピードで進む少子化の現状が改めて浮き彫りとなりました。

1~6月の出生数は6ヶ月連続で前年を下回り、前年同期比で1万3890人減少しました。婚姻数は7.3%減の24万6332組で、死亡数は2.6%増の

79万7716人。死亡数から出生数を引いた自然減は42万6864人でした。

6月公表の22年の人口動態統計によると、同年の出生数は77万747人で、1899年の統計開始以来、初めて80万人を割り込みました。1人の女性が生涯に産む子どもの推計人数を示す合計特殊出生率も過去最低(05年)と並ぶ1.26で、17年ぶりの低水準となりました。

出生数は16年に100万人、19年に90万人を下回り、22年まで7年連続の減少が続きます。今年下半期も上半期と同じ傾向が続いた場合、過去最少を更新する可能性が高くなります。

今年上半期出生数37万人

昨年は初の80万人割れ